令和７年9月25日

南の風 For Junior200

南部地区ミニバスケットボール連盟
会　長　藤原　敬一

読者の皆様のお蔭をもちまして For Junior も２００まで来ました。For Junior は、U１８向けに書き進めています。内容によっては U１８の指導者にも参考になるようにしています。今後ともよろしくお願い致します。

１９９の続きになります。

ゼロステップでの仕掛けに対してディフェンスが反応しなければ、１歩目でシュートを打つことも可能です。これはシュートフェイクとは異なります。大切なことは、ボールマンが自らの意思で駆け引きをする（仕掛ける）ことです。ペイントエリア内のフィニッシュスキルとして習得するようにしてください。

原則❷リバウンドでシュート回数を増やすことを意図する

目的▶セカンドチャンスとトランジションディフェンスに備える

リバウンドポジションを取るためには、ヒットファーストでポジションファイトをすることが大切です。ヒットファーストとは自分から先にコンタクトすることです。またポジションファイトとは占有エリアを取る戦いとしい意味です。シュートを打つ前にオフェンスリバウンドのポジションファイト（ポジション争い）を始めることが重要です。

原則❸タグアップでトランジションディフェンスに備える

目的▶セカンドチャンスとトランジションディフェンスに備える

オフェンスからディフェンスへの移行をスムーズに、しかもシームレス（継ぎ目がない状態）に行うことを目指します。

🏀タグアップ戦術

オフェンスからディフェンスへの移行をシームレスに行うために、タグアップ戦術を取り入れることがあります。タグアップ戦術とは、チーム５人がオフェンスリバウンドの際にディフェンスよりもインサイドのポジションを取ろうとせず、ディフェンスを押し込むタグアップをしながらリバウンドに備えるという戦術です。相手にディフェンスリバウンドを取られても、オフェンスからディフェンスに切り替わった時点で、自チームのゴール側にポジションを取っていることになり、<u>セーフティも必要なく</u>、「攻撃から守備への局面」にスムーズに移行できます。

この場合、次の「攻撃から守備への局面」においてチームのねらいがフルコートのプレッシャーをかけることであれば、タグアップがより効果を発揮することになります。

但し、ディフェンスがシュートコンテストをしたあと、シューターに対してボックスアウトをせずにそのまま速攻に走りだす、フライバイ＆リークアウトの動きをしてきた場合は、注意しなければなりません。**<u>タグアップをチームの原則に設定していたとしても、「失点をしない」というディフェンスの目的からすると、リークアウトするプレーヤーに対してはセーフティで備えることが優先</u>**されます。

ここまでお尋ねのあった、「クリエイトの段階」から「チャンス」「ブレイク」「フィニッシュ」までを見てきました。このシリーズはここで終了します。　　次回は新たな内容を取り上げます